

鳥羽市英語教育推進計画

令和8年4月改訂

鳥羽市教育委員会

目次

	Page
1 鳥羽市英語教育推進計画について	1
(1) 計画策定の趣旨	
(2) 計画の位置付け	
(3) 計画の期間	
2 鳥羽市が目指す英語教育	2
3 英語教育推進目標と施策の基本方向	3
4 施策の概要	4. 5. 6

1 鳥羽市英語教育推進計画について

(1) 計画策定の趣旨

社会のグローバル化やデジタル化の進展により、他者と協働しながら課題に向き合い、自らの考えや地域の魅力を発信する力の重要性が一層高まっている。こうした中、国は令和5年6月に第4期教育振興基本計画を策定し、「持続可能な社会の創り手の育成」および「ウェルビーイングの向上」を柱として、学校教育の充実を図ることとしている。英語教育においては、実際のコミュニケーションの中で英語を活用する力の育成や、指導と評価の一体化、小中高の接続を意識した取組の重要性が示されている。

また、三重県においては、令和6年3月に策定された三重県教育ビジョン（令和6年度～令和9年度）のもと、「グローバル教育の推進」を掲げ、地域に根ざしつつ国際的な視野を持って行動できる人材の育成を目指している。英語教育についても、英語による言語活動の充実や校種間連携の強化、教員の指導力向上を柱とした取組が進められている。

このような国および県の動向を踏まえるとともに、本市におけるこれまでの英語教育の成果と課題を整理し、児童生徒が英語を「学ぶ」だけでなく、「使いながら考え、伝え、つながる」力を育成するための取組を一層推進する必要がある。

そこで、本計画は、鳥羽市の地域性や学校の実態を生かした英語教育の方向性を明確にし、学年や校種を超えて系統的・継続的に取り組むため、改定するものである。

本改定を通して、児童生徒一人ひとりが自信をもって英語で自分の考えや思いを表現し、将来、地域や世界と主体的につながっていける力を育むことを目指す。

(2) 計画の位置付け

本推進計画は、「第3次鳥羽市教育ビジョン」を踏まえ、本市の英語教育の充実を目的として、学校教育分野における具体的な方策や施策を示したものである。

(3) 計画の期間

計画期間は、令和8年度から令和12年度までとする。

2 鳥羽市が目指す英語教育

国際観光文化都市である鳥羽市として目指す英語教育は、児童生徒が英語を通して他者と協働し、自らの考えや地域の魅力を主体的に発信できる力を育成することにある。

急速に変化する社会においては、英語を単に知識として習得するだけでなく、実際の場面で使いながら考え、判断し、行動する力が求められている。

そのため本市では、学習指導要領の趣旨および国・県の教育施策を踏まえ、「英語を学ぶ教科」から「英語でつながる学び」へと質的転換を図る英語教育を推進する。

本市の英語教育を通して、英語を用いて自分の考えや気持ちを伝えようとすることや、多様な文化や価値観を尊重し、他者と主体的に関わろうとすること、さらに、鳥羽の自然・歴史・文化に誇りを持ち、それらを英語で発信しようとすることができる児童生徒の育成を目指す。

これらの児童生徒の目指す姿を通して、自己肯定感を高め、将来、地域や世界とつながって生きる力を育む。

(1) 実践的なコミュニケーション能力を養う

「聞く・話す・読む・書く」の4技能を統合的に活用し、目的や場面、相手に応じて英語を使おうとする力を育成する。

特に、「話すこと（やり取り・発表）」を重視し、実際に英語を使う言語活動の充実を図る。

(2) 思考力・判断力・表現力を養う

英語でのやり取りを通して、情報を整理し、考えを深め、相手に分かりやすく伝える力を育成する。

単なる表現の再生にとどまらず、自分の考えを持ち、それを英語で表現する経験を大切にする。

(3) 多文化理解と共生の態度を育成する

外国語学習を通して、自文化への理解を深めるとともに、異なる文化や価値観を認め合う態度を育成する。

観光地である鳥羽市の特性を生かし、多文化共生社会の一員として行動しようとする姿勢を養う。

3 英語教育推進目標と施策の基本方向

(1) 英語教育推進目標

国際観光文化都市に資する人づくりおよび鳥羽の将来を担う子どもたちの 国際的なコミュニケーション力の育成のため、地域の特色を生かした鳥羽ならではの英語教育に取り組むことを通して、鳥羽市の英語教育を推進する。

(2) 施策の基本方向

○基本方向1 系統的な英語教育の確立

外国語教育カリキュラムに基づき、子どもたちの発達段階に応じた英語力を身に付けられるよう指導を推進する。また、小学校・中学校における英語教育の円滑な接続を重視し、学年段階に応じた系統的な指導を行う。

○基本方向2 英語教育の指導体制の充実

すべての園・学校にALTを継続して配置し、教員が主体となって、ALTと協働した授業づくりを行う指導体制の充実を図る。また、複式学級において少人数での英語学習を充実させる授業づくりを行う指導体制の充実を図る。

○基本方向3 地域とつながる英語教育の推進

学んだ英語を用いて、自分の思いや考えを伝え合う経験を積めるようにするため、校内においてはALTと交流する機会を設ける。また、考えたり、調べたりしたことを英語で相手に伝える場面として、地域に出向いて、鳥羽を訪れる外国からの観光客を相手に地域の特色について紹介する機会を設ける。さらに、オンラインを活用し、外国の子どもたちと学級やグループ単位で、地域学習での学びを英語で発信したり、双方向でのやりとりを行ったりする機会を設ける。

○基本方向4 英検チャレンジ事業の推進

英語に関する資格・検定に取り組み、学んだ英語を実用的に使用することについて関心を高める。また、ALTやデジタル教材を効果的に活用しながら、英検合格に向け、子どもたちのさらなる意欲向上を目指す。

4 施策の概要

本計画期間中に取り組む諸施策について、以下の内容を基本として推進する。
なお、各施策は予算措置を担保するものではなく、財政負担を伴うものについては、別途予算化に向けた協議・調整を行うものとする。

○基本方向1 系統的な英語教育の確立

目標 系統的な英語教育の構築・定着を図る

【方針】

小学校において、英語に親しみ、自分の思いや身近なことを伝える楽しさを感じるとともに、聞く・話すことを中心に、英語で相手と関わろうとする態度を育成する。また、中学校においては、小学校での学びを基盤として、4技能（聞く・読む・話す・書く）を総合的に活用し、目的や場面を意識しながら自分の考えを英語で表現する力を高め、学びのつながりを重視した英語教育を推進する。

【内容】

- ・各学校において、外国語教育カリキュラムに基づき、小中学校の学びのつながりを重視した授業づくりを行う。
- ・小学校・中学校の英語担当教員が連携し、年間指導計画や単元構成を共有・確認する機会を計画的に設ける。
- ・CAN-DO リストを活用し、児童生徒にとって分かりやすい学習目標を設定するとともに、授業のねらいと評価を明確にする。

○基本方向2 英語教育の指導体制の充実

目標 指導体制の充実・強化を図る

【方針】

教員が主体となり、ALT と協働する指導体制を確立し、ALT の効果的な活用を通して英語による言語活動の充実を図る。また、学校の実態や複式学級等の特性を生かした柔軟な指導体制を整備する。

【内容】

- ・ALT と授業のねらいや言語活動を共有したうえで、役割分担を明確にした協働授業を行う。授業前後の打合せや振り返りを通して、教員と ALT が互いの専門性を生かし、授業改善につなげる体制を整える。

- ・学校の規模や実態、学級編制を踏まえ、ALT の配置方法や授業形態を柔軟に工夫する。
- ・授業の実践事例を市内で共有し、効果的な ALT 活用や複式学級における指導の工夫を横断的に広げる。
- ・ICT を活用し、ALT との協働を補完する教材提示や活動支援を行うことで、質の高い英語授業を実現する。

○基本方向3 地域とつながる英語教育の推進

目標 鳥羽の特性を生かした言語活動の充実を図る

【方針】

鳥羽ならではの地域資源を活用した言語活動を充実させ、観光地での案内等、実社会を意識した場面設定により、英語を使う必然性を高める。そのために、地域や地域人材と連携し、学びを広げる英語教育を推進し、鳥羽を発信する学びを通して、学習意欲と自己肯定感を高める。

【内容】

- ・鳥羽市の自然、歴史、文化、産業、観光資源を題材とし、子どもたちの身近な事柄について英語で伝える言語活動を計画的に取り入れる。
- ・クルーズ船寄港時のガイドボランティア活動や外国とのオンライン交流学習を通して、観光地での案内や紹介、交流をする場面を設定する。その際、目的・相手・場面を意識した言語活動となる授業づくりを推進する。
- ・地域の施設、行事、人材等と連携し、学習を通しての経験や体験をもとにした発信ができるよう他教科との関連を生かした英語学習の機会を取り入れる。
- ・鳥羽の魅力を英語で伝える活動を通して、子どもたちが自分の考えや思いを表現し、地域とつながる経験を積み重ねることで、将来の学びや社会参画への意識につながるよう支援する。

○基本方向4 英検チャレンジ事業の推進

目標 実用的な英語活用への意欲向上を図る

【方針】

英検チャレンジ事業を通して、英語を学ぶ目標意識を高め、実用的な英語力の育成につながる学習内容の充実を図る。また、英検チャレンジ事業を通して成果だけでなく、努力や継続的な取組を評価することで、学習意

欲向上や英語学習への自信につなげる。

【内容】

- ・英検チャレンジ事業において、子どもたちが自らの英語力を確認し、次の目標に向かって学ぼうとする意欲を高める取組を推進するとともに、検定への挑戦が、日常の授業での学びと結び付くよう、英語学習全体の中に位置付ける。
- ・英検で培った力が、将来の学習や進路、地域や社会での英語活用につながることを意識させ、学んだ表現や技能を、地域とつながる学習や発信活動の中で生かす。
- ・検定への挑戦や達成経験を通して、英語で学び続ける意義や自信を育み、努力や継続的な取組について評価し、英語学習への自信につなげる。

鳥羽市英語教育推進計画

発行日 令和8年4月

発行 鳥羽市

編集 教育委員会事務局 学校教育課

〒517-0022

鳥羽市大明東町1番6号

TEL 0599-25-1265

FAX 0599-25-1263

E-mail shidou@city.toba.lg.jp